

1. 病棟の具体的な目標と評価

1) 安全で質の高い看護を提供する

PNS を維持し、看護の可視化に努め、後輩指導を OJT で行うことができた。PNS マインドについて勉強会を行った。OJT での指導が充実することで看護の質の維持、向上ができた。また、リシャッフル について検討し、リシャッフル表の改定を行うことで、残務が可視化できるようにした。

退院支援調整看護師を中心に、入院早期に退院後の生活を確認した。他職種とのカンファレンスを定期的で開催し、患者の退院後の生活を見据えた看護を提供することができた。

2) 病院の運営・経営に参画する

平均在院日数は 18.4 日と前年度の 17.5 日より延長したが、病床利用率は 96%と前年度の 95.6%より上昇した。また、有料個室稼働率は 104.9%(前年度 102.5%)、重症加算稼働率は 98.3%(前年度 96%)と前年度より上昇した。効果的に病床を利用することができた。

SPD ラベルの紛失状況を周知し、意識付けを行った。コスト漏れも調査し、指導をすることで前年度より削減できた。SPD 物品の使用状況を確認し、不要物品の削除や定数の見直しを行い不要在庫を削減することができた。

3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

インシデントカンファレンスを開催することで有効な対策を立てることができた。また、マニュアル、手順を元に振り返りを行うことが増えた。インシデントカンファレンスを行うことでインシデント総件数は前年度に比べ 10%減少した。転倒転落によるレベル 3b のインシデントが 2 件発生していた。

リンクナースが指導し、看護師全員が手指衛生に努め感染防止を行ったため、アルコール製剤の使用量が減少することはなかった。感染防止に対する意識が向上した。針刺し件数は 1 件あった。

マットレスの選択、体位変換、観察を行っていたが褥瘡の新規発生が 9 件あった。褥瘡発生後、皮膚排泄ケア認定看護師指導のもと皮膚の保湿を行い、さらに褥瘡発生に注意を払うようになった。

4) 専門職としての能力開発に努める

病棟勉強会は脊椎疾患、急変対応を開催できた。外傷勉強会にも参加した。

看護研究は 2 題、看護研究発表会と日本肩関節学会に発表した。

プリセプター会を毎月開催し、新人看護師の情報を共有した。プリセプターは新人看護師の年間パートナーとなり OJT でも指導を行った

5) 看護の先輩として学生指導に携わる

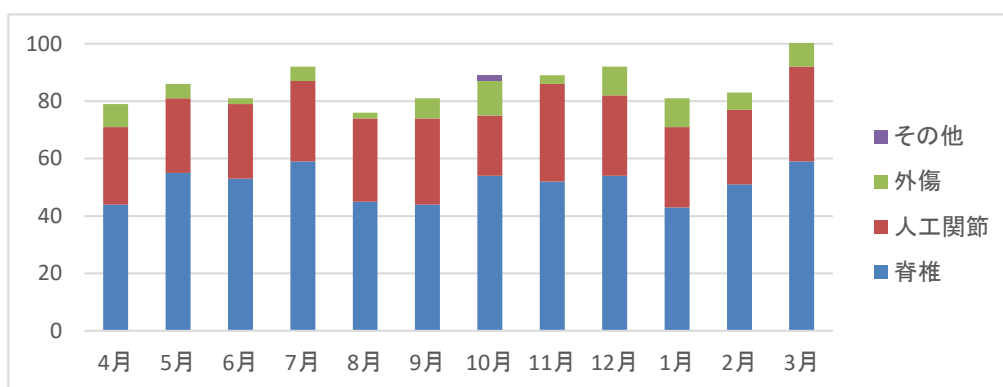
CE がスタッフに実習目標や協力してほしい内容などを掲示し周知したことや、教員と連携することで各学生に統一した指導が行えた。カンファレンスや振り返りに CE2 名、看護師長または副看護師長が参加し指導・助言を行った。学生からの実習に対する満足度は老年 I は 4.4 点と平均 4.5 点より下回ったが、基礎 II は 4.9 点で平均 4.4 点、成人 I は 4.6 点で平均 4.4 点より上回っていた。CE、看護師の指導に学生が満足していることで、学生指導を自信をもって行うことができた) 活気ある職場、元気の出る職場作りを推進する患者、職員に対し挨拶を行えている。「ありがとう」のことも職員に対してのみではなく、患者に対しても行えており、活気ある職場となっている。超過勤務は前年度に比べると削減できた。また、4 日間と 7 日間の年 2 回の連続休暇を取得し、年休取得は一人平均 7.6 日であった。リフレッシュができワークライフバランスの実現につなげることができた。

2. 病床運営状況

表 1 令和元年度 病床運営状況

収容可能病床数(床)	診療科名	月平均		平均 在院患者数 (人)	平均 在院日数 (日)	病床 利用率(%)	病床 稼働率(%)
		新入院患者数 (人)	退院患者数 (人)				
48	整形外科	83.3	69.3	46.1	18.4	96	100.7

重症加算病床		有料個室		死亡者数 (人)
病床数(床)	稼働率(%)	病床数(床)	稼働率(%)	
3	98.3	7	104.9	1



3. 看護体制

表 2 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
32	PNS [®]	3 : 3

4. 看護統計

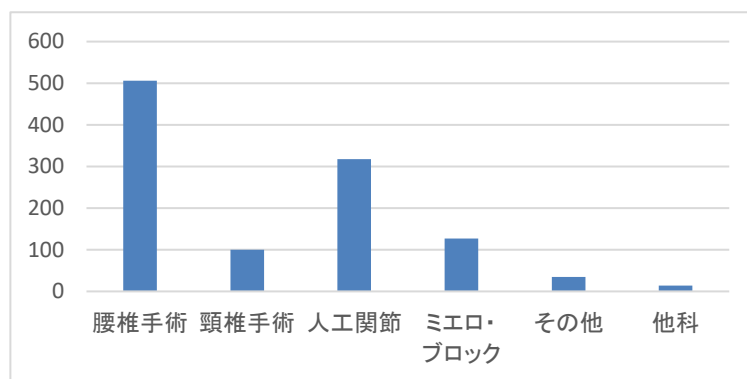
1) 看護必要度

表 3 令和元年度 一般病棟 重症度、医療・看護必要度 I

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
基準を満たす患者の割合(%)	30.2	29.4	32.6	33.1	30	32.8	32.6	35.8	32	30.8	32.4	35.8	32.2

2) クリニカルパスの使用件数

クリニカルパスの使用件数 件/年	110
------------------	-----



5. 研究業績

1) 看護研究発表・研究会発表

発表演題名	発表者	学会名	開催地	開催日
リバース TSA 術後患者の回復過程 —入院中の日常生活動作について—	安部紗月	第 46 回日本 肩関節学会	長野	2019 年 10 月 25 日
整形外科病棟でのインスリン使用に対する 患者の思い —一周手術期における 血糖コントロールについて—	杉山陽香	看護研究発表 会	院内	2020 年 2 月 8 日